

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第8回 議事概要

日時	2024年2月27日(火) 13:30~18:00
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：泉、吉田、木村隼、木村大、清原、鈴木、安本、有賀 専門家：熊谷、長町、榎本、大橋、井上 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 前田、田中、平山、村上、上野

1. モバイルファニチャーの検討

熊谷委員、鈴木委員、有賀委員より資料に基づき説明の上、議論

(2024年度・2025年度の取組)

- モバイルファニチャーの実施・運用エリアは、当面はゲートウェイハーバーゾーンにエリアを絞り、地先事業者と連携しながらエリア全体の賑わいをつくっていくことをやっていくべき。
- 全体の考え方を共有した上で、詳細の設置物などは各地先事業者と協議の上、次回のデザイン会議で議論できたらと思っている。
- カモンワークでは、秋の実施期間はビアガーデンで使っているものを持ってきて配置するなど検討できる。モバイルオーダーなどの工夫も試せたら、2階や3階のお店にも良い面があると想定されるので、工夫していく可能性はある。
- 同じモバイルファニチャーでも、もう少し大きなシンボリックな仕掛けとなるものを制作していく場合には、別途の予算措置も含めて検討する必要がある。
- それらも含む設置時の費用負担はどうなるか。
→公共空間なので、行政が設置して民間が運営していくような形はあり得る。行政が動いていくためには、市民の理解が必要になるため、それを得ていくための社会実験ということ。2025年に間に合うように予算措置をしていこうと考えた場合には、おおむね10月中旬くらいには必要な予算イメージが見えていけば、というスケジュール感。
- 事業者の中でも、地先を活用することで直接メリットがあるところとそうでないところがある。また、当面は地先事業者の活用は見込めなくてもエリアとして必要な部分などもあり得る。そのためにもエリアマネジメント組織が関与する形で考えていくことが有効。

2. 3月の社会実験の計画

木村大委員より資料に基づき説明の上、議論

(3月社会実験)

- 活用実証については、実施間近なので、現在の計画に沿った実施を進める。
- サンセットクルーズについては現時点で80組200名を超える申し込みがあり、反応は上々と言える。
※応募数はデザイン会議時点

- 噴水の実証時、歩行者の安全管理対策に関してコーンの確保等が追加が必要。

(連絡船乗り場付近の演出)

- 3月の社会実験では直接関係がないが、連絡船乗り場付近のワクワク感を高めるため、兵庫県の近代美術館のような例を参考にした演出を検討してはどうか。
→民間事業者の建物なので確認が必要ではあるが、面白いアイデアではないか。数年間を目安にアドバルーンとして制作するなども検討。

3. カイキョーリボンプロジェクト実行委員会

下関市エリアビジョン推進室より資料に基づき説明の上、議論

- 会計の明瞭化をより確実にを行うため、社会実験等は実行委員会形式で行っていく。
- メンバーは KAM を中心に地元メンバーで構成すべきではないか。エリア内の企業の皆さんにも入っていただいて進めることで、将来におけるエリマネ議論のベースにもなり得る。
- KAM メンバーの業務について、委託事業と実行委員会との切り分けが必要になるが、走りながら整理していく。

4. 関門一体の魅力化検討

木村隼委員より資料に基づき説明の上、議論

- 既存の関門連携の枠組みとしては、関門海峡観光推進協議会が存在。下関市観光政策課と北九州市門司港レトロ課と共同で実施し、HP の運用やパンフレットやチラシの作成、エージェントへのセールスやお出迎えイベントなどを実施。
- 「関門」の知名度が思ったよりも低いのが実情。このため、関門トンネル人道橋でギネス記録に挑戦するイベントなども行なっている。唐戸から門司港までの関門汽船、人道橋での行き来はあるが、「回遊」は上手くいっていない
- OTA で「関門」キーワードが出てくることが望ましいが、実現に向けては知名度が課題。
- 各地で広域連携がスタートしたところから取り組んでいるが、現時点ではまだまだ下関は下関でやるのがたくさんある状態なので、まずは海上交通に注力していくことから着手、ということではよいのではないかと。

5. エリアマネジメントに関する検討

木村隼委員より資料に基づき説明の上、議論

- 暮らしている住民が存在する地域でのエリアマネジメント・ソフト中心のエリアマネジメントという位置づけであれば、現状の案が一つの形である。
- ただし、港湾エリアという特殊な環境にあることも考慮する必要があるのではないかと。具体的には、住民は存在せず、行政が直接関与する余地が大きいという中で、エリアマネジメントや開発公社的な活動に対して、行政による出資の余地や、ソフトだけでなく今後の開発におけるマスターリースの役割、ファンド運営による開発への関与なども検討し得るのでは。

- 行政の関与の大きい事例として神戸市のケースはあるが、特殊ケースという面もあるのでは。行政がどこまでの役割を担うか、民間がやるべきことなのかどうか、見極めが必要。
- 市の関与も含めたパターンがいくつかあると想定されるので、さらに検討する。いずれにしてもポイントは、駐車場や公共空間などの権限移譲が前提にあり、その下できちんと事業計画を組んで事業化していくこと。

6. 令和7年秋の実現イメージ

木村隼委員より資料に基づき説明の上、議論

- まちとの回遊性を高めるためみちが完了している箇所があるので PR できるのではないかと。今日の議論で連絡船乗り場周辺の魅力を高める話も出てきたので、追加検討。
- モバイルファニチャーはリゾナーレ前も検討。サイズ感が異なるため、東船溜まりゾーンのものも移動させていくよりも、船が来る際のお出迎えのシーンなども意識して、この場所用のものを検討していく必要があるのではないかと。
- 関門橋は大きな魅力だと思うので、その演出関係も加えられると良いのではないかと。ブリッジライムなども実現できれば面白いコンテンツになる。
- 逆に、PR の時期に「やっつけてはいけない」というものもあると思われるので、整理が必要。
- アクティビティハーバーゾーンの取扱いをどうするか。魅力となり得る可能性を秘めた場所ではあるが、現時点で検討の目途が立っていない。
- この関係で海上交通の議論がある。西側に発着点を作っていくなどの検討ができないか。新門司のマリーナでも民間での動きがある。こうした利用を想定した場合でも、ポンツーンの設定や航路調整など船舶との調整が発生する。
- 一方で、この箇所を検討する場合には岬之町全体の動きもあわせて検討していくことも視野に入れる必要があるのではないかと。

→全体として線表に落とし込んで実現可能性を整理の上、どこまで実現を目指すかを再度議論する。

7. ハードデザイン検討状況

熊谷委員より資料に基づき説明の上、議論

- 史跡等がたくさんあるが、サインをきっちり制作していくことが必要。
- 現状、サイン計画を進めていく予定にはなっているが、デザインまで作りこむ予算は乏しいのが現状。
- デザイン会議の場でどういう形で進めていけるかを議論しながら進めていきたい。

以上